

第7回 石原円吉賞 記念講演

講演テーマ 「伊勢志摩国立公園と海」

講師：鳥羽市立海の博物館 事務局長 石原 真伊 さん



三代にわたる海への想い

私の祖父・石原円吉は、明治から昭和にかけて漁業や水産業の発展に尽力し、伊勢志摩国立公園の指定に深く関わった人物です。晩年には「海の博物館」設立の構想を描き、水産資源を守ること、そして増やすことに力を注ぎました。その遺志を受け継ぎ、父・義剛は博物館の設立に奔走。博物館活動とともに、講演会や環境活動、展示資料の収集・保存などを続けました。祖父は私が幼いころに亡くなったため直接的な接点はありませんでしたが、祖父の活動を知るうちにその偉大さを感じています。そして現在、私が祖父と父の活動を引き継ぎ、この地で「海文化」という新しい世界に出会い、その奥深さに魅了されながら、博物館運営を行っています。

館では漁具や海にまつわる品々をひたすら集めてきました。地域の方々から提供いただく品々はどれも今は貴重な文化の証。現在では10万点以上の資料を収蔵しています。これらの資料を通じて、過去から未来へと海文化を繋ぎたい。その想いを込めて現在も、なるべくそのままの形で展示・保存しています。

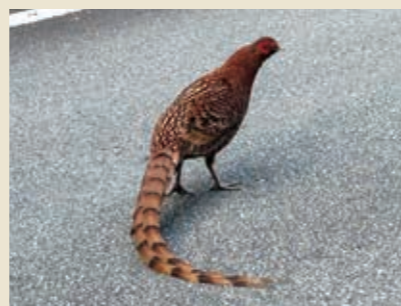


「海の博物館」の展示棟

伊勢志摩国立公園で感じる 自然と課題

伊勢志摩国立公園は、豊かな自然が広がる素晴らしい場所です。私は日々、その美しさに驚かされ、新しい発見もたくさんあります。一方で、磯焼けや海の温暖化といった問題もあり、漁師さんたちの厳しい声

を聞くことも少なくありません。それでも、こうした自然や課題に向き合いながら、人々が「発見」と「癒やし」を感じられる場として、みんなで大切に守っていかねばならないと強く感じています。



パールロードで出会った日本固有種ヤマドリ

次世代に繋ぐ海文化

「自然と人が共存できる場所を未来に残す」——これが私の願いです。海の博物館では、鮑の稚貝や役目を終えた大漁旗など、何とか“新しいカタチ”にして生かすことができないかと、アートやグッズ制作を通じて、若い世代に向けた海文化の魅力発信にも力を入れています。海の博物館がその拠点となるよう、これからも挑戦を続けていきたいです。



アワビ貝ピンバッチ ※売上げの一部を海女支援に寄附



石原円吉 いしはら・えんきち (1877~1973)

三重県英虞郡和具村(現在の志摩市志摩町和具)出身。実業家で国や県の政界でも活躍。水産業発展と海の保全に尽力した。戦前から伊勢志摩の国立公園の指定にも貢献し、戦後、伊勢志摩国立公園協会初代会長に就任。昭和46年海の博物館を開設した。

このチラシに関する問い合わせ先

(一財)伊勢志摩国立公園協会
〒517-0011 三重県鳥羽市鳥羽1丁目2383-51
TEL & FAX 0599-25-2358
ホームページ https://www.ise-shima.or.jp/
メール ise-shima@ise-shima.or.jp



ホームページ



メール

11月20日は伊勢志摩国立公園の誕生日

世界水準のナショナルパークを目指す 伊勢志摩国立公園

初春の便り



令和7年1月

Vol.14

発行/(一財)伊勢志摩国立公園協会、三重県 編集協力/(株)アイブレーション

第7回 石原円吉賞 表彰式

輝かしい功績を 讃えて

11月20日、23日、24日の3日間にわたり、伊勢志摩国立公園の指定日を祝う記念イベント「Happy Birthday!伊勢志摩国立公園」が鳥羽マリナターミナルにおいて開催されました。今年は1団体・1個人が栄えある石原円吉賞を受賞し、20日の表彰式では山本教和会長より表彰状並びに記念品が贈呈されました。

また、環境省が永年にわたり自然歩道の維持・管理などに顕著な功績のあった方々を表彰する「自然歩道関係功労者表彰授与式」も同時に行われ、同国立公園内の近畿自然歩道の清掃や補修、障害物除去、事故防止に尽力されている鳥羽市教育委員会学芸員の野村史隆さんが表彰されました。このほか、23日、24日にはクラフト体験教室が開催されました。(詳細は3ページ)



受賞者 (団体) 鳥羽市

鳥羽ガイドボランティアの会



平成11年に市民有志で設立された鳥羽ガイドボランティアの会。鳥羽1丁目のガイドセンターを拠点に、観光協会などと連携し、長年にわたり観光案内や情報発信を行っています。

受賞者 (個人) 鳥羽市

川村 光徳さん



多年にわたり教員として指導・育成に尽力し、小・中学校校長や鳥羽市教育長を歴任。退職後は長尾オルガンや賀多神社の能・狂言の保存・復活に尽力し、現在も地域の歴史文化の継承に取り組んでいます。

選考委員による総評

皇學館大学名誉教授 櫻井 治男 さん

今回の選考は、地域文化の継承や公園資源の活用、動植物保護、景観維持、保全活用の功績に基づき、慎重に進められました。特に受賞者の皆様の活動は、地元文化や自然への深い理解と尽力が感じられ、次世代に繋ぐべき重要な取り組みと評価されました。選考委員会としても、いただいた推薦を慎重に検討した結果、表彰者を決定するに至りました。





石原円吉賞 受賞団体

鳥羽ガイドボランティアの会

会長 清水 久行 さん

地域の魅力を伝える多彩なガイド活動

ガイド活動の中でも、特に離島案内は鳥羽ならではの暮らしや文化に触れる貴重な機会として、観光客から高い評価を受けています。例えば、個人旅行では訪れるのが難しい漁港や魚市場を案内し、競りの様子を間近で見学できることは大変喜ばれています。また、九鬼嘉隆や御木本幸吉といった偉人にまつわる歴史や伝説を交えた話や、四季折々の自然を楽しむガイドも人気です。現在、平均年齢 70 代の会員 15 名が活動しており、高齢化による担い手不足という課題を抱えていますが、会員一同が楽しみながら、お客様一人ひとりに寄り添った柔軟な案内を心掛けています。



クルーズ客船「ダイヤモンド・プリンセス」寄港時、外国人観光客を甲冑(かっちゅう)姿でお迎え



九鬼嘉隆の首塚(答志島)でのガイドの様子



和具港(答志島)でのガイドの様子

市民が主体となる観光まちづくりをめざして

会員同士が月に 1 回集まり、勉強会を通じて情報を共有しながら、自然や文化に関する知識を深め、スキルの向上を図っています。また、遊歩道の清掃や安全点検など、観光地の整備にも取り組んでいます。鳥羽には、日常風景や風習といった身近なものに多くの魅力が潜在しています。まずはここに暮らす市民がその魅力を知り、愛着を持つことで、地域全体で協力しながら観光まちづくりを進めていけると考えています。

選考委員講評

発足から 24 年にわたり、年間 6,000 人以上の来訪者に地域の魅力を伝えてこられました。活動を支えるメンバーの減少という課題の中でも、地域文化の継承と発展に大きな役割を果たされています。遊歩道の整備やガイド活動を通じ、訪れる人々に感動と学びを提供している姿勢は、地元住民や観光客にとって非常に貴重です。

環境省自然歩道関係功労者表彰 受賞者

鳥羽市教育委員会 学芸員 野村 史隆 さん

私は青峯山のふもとで生まれ育ち、幼少時代から青峯山にとっても愛着を持っています。海の博物館で学芸員をしていた時には「青峯信仰」というタイトルの論文も発表しました。山頂付近にある正福寺には、海運業の安全と繁栄を祈願して奉納された護摩札など、多くの歴史的資料が残っています。また、伊雑宮がある志摩市磯部町から青峯山を經由して伊勢へと向かう「鳥羽道」には、道しるべとして二十四町まで町石が建てられています。このような歴史深い自然歩道に倒木などの障害物がないか、日々、安全点検を行っています。この賞を受け、もうしばらく取り組みを継続していきたいと思えます。

環境省講評

伊勢志摩国立公園内の近畿自然歩道「10 舟神様「青峯山」をたずねるみち」において、平成 25 年度から清掃や補修、倒木などの障害物除去を精力的に行い、事故防止に努められてきました。この歩道が青峯山正福寺への参詣道であり、海女文化において重要な役割を果たす歴史・文化を後世に残すための活動もされています。さらに、伊勢志摩の民俗学にも精通され、歴史的価値や見所を広く普及・啓発することに尽力されました。こうした、国立公園における自然歩道の保全と管理への取り組みが高く評価され、今回の選定となりました。



環境省から表彰を受ける野村さん



青峯山 正福寺「御舟祭」

石原円吉賞 受賞者

川村 光徳 さん

鳥羽の歴史文化を次世代へ

教育長時代に鳥羽大庄屋かどやの蔵から偶然発見されたペビーオルガンが、長尾オルガンという明治時代に造られた国産初の貴重なものだと分かり、退職後に鳥羽長尾オルガン協会会長として修復・保存活動に努め、その価値を広める演奏会を数多く開催してきました。また、現在は鳥羽市能楽保存会会長として、鳥羽市の賀多神社で継承されてきた能楽を後世に残そうと、狂言師を月に 2 回お呼びして指導を行うとともに、子どもたちの興味・関心につなぐため、保育園や小中学校、イベントなどで演目を披露しています。



明治 30 年代に松阪の長尾製作所で作られた日本最古の和製オルガン「長尾オルガン」



保育園で狂言「盆山」を披露する子どもたち

国際観光文化都市・鳥羽の発展を願って



「伝統文化教室」で狂言面を鑑賞する小学生たち



小学校で「賀多神社の能の歴史」紙芝居をする川村さん

なんとかして「明治の音色を心に響かせたい」「伝統ある能や狂言を復活させたい」という気持ちで、地域の皆様に関心を持っていただくための活動をしてきました。伝統はいわゆる昔からの歴史の流れですが、文化は時代によって変化していきます。価値のあるものや、古くからの芸能をしっかり継承していくことが、地域の魅力につながっていきます。伝統文化の継承のため、これからも皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

選考委員講評

川村さんは、鳥羽長尾オルガン協会の会長としてのご活躍や、市内の重要な文化財である賀多神社の能・狂言の保存と活用に尽力されました。また、伝統文化である能・狂言の保存や地域文化の普及活動を進める中で、文化資源を地域社会に深く根付かせる努力が評価されました。これらの活動は、地元における文化的価値の再認識につながっています。

お知らせ

第 8 回 石原円吉賞候補者の推薦を募集します!

- 対象 伊勢志摩国立公園の自然や文化を守り続ける取り組み(地域文化の継承や適正な活動の推進、動植物の保全活動など)に携わっている個人や団体。
- 候補者の推薦・応募方法 推薦書は、伊勢志摩国立公園協会ホームページから入手できます。必要事項を記入のうえ、ise-shima@ise-shima.or.jp に送信してください。

自然素材を使ったクラフト体験教室

海・山の恵みを使った フォトフレーム作り

11月23日(土)・24日(日)

講師 伊勢志摩国立公園自然ふれあい推進協議会 伊藤 芳正 さん

どんぐりや地元の海で採れた貝殻や真珠などを使ってオリジナルフォトフレームを作りました。

貝殻を付けるのは楽しいです!

真珠を付けたフォトフレームはとっても可愛い!